

医療介護連携研修会アンケート結果報告（速報値）

○調査期間：令和2年6月4日～7月3日

○送付・回収数、回収率：

事業所区分	送付数	回収数*	回収率(%)
訪問介護・訪問入浴	130	49	37.7
通所介護	193	91	47.2
訪問看護ステーション	34	17	50.0
（看護）小規模多機能型居宅介護	31	19	61.3
居宅介護支援事業所	144	93	64.6
地域包括支援センター	32	28	87.5
合計	564	297	52.7

※1 事業所から複数回答含む

■ ■ 自由記載一部抜粋 ■ ■

1. 新型コロナウイルス感染拡大により業務へどのような影響がありましたか。

【共通】

- ・マスクの着用、手指消毒の実施、換気、スタッフの体調管理、職員間の接触を減らす等事業所内の感染対策を徹底した。情報収集を含め感染対策の業務量が増えた。
- ・マスクや消毒薬等、感染対策用品が入手困難。高額のため費用がかさんだ。
- ・利用者や家族の希望による利用控え、キャンセルがあった。減収となった。
- ・新規利用者を受け入れの自粛。 ・新規者受け入れを断られた。
- ・自身が感染源とならないよう精神的負担の強い状態が続いている。
- ・利用者や職員等に感染者、濃厚接触者、濃厚接触者の接触者がいたため、休業した。
- ・サービスが中止となったことで、利用者様のADL低下、不穏な行動が多くなった。
- ・休校、休園による、職員の勤務調整が必要だった。
- ・職員本人、家族から感染に対する不安があり休職、退職等のため勤務調整が必要だった。

【訪問介護・訪問入浴】

- ・通所系サービス、ショートステイ事業所の休業による訪問介護、訪問入浴の増加。

【通所介護】

- ・送迎車の乗車人数を減らしたため、送迎回数が増えた。

【訪問看護ステーション】

- ・訪問時間の短縮により、十分なサービス提供ができない、看護に余裕がなくなった。

【看護・小規模多機能型居宅介護】

- ・通いの利用者をできるかぎり訪問に切り替えた。

【居宅介護支援事業所】

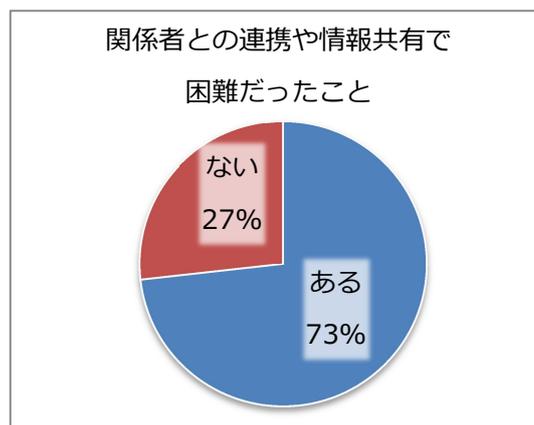
- ・サービス事業所の休業やサービスの一本化が相次ぎ、調整が多かった。

【地域包括支援センター】

- ・富山市の委託業務の事業がすべて中止、延期となった。

2. 関係者（サービス事業所・医療関係者・家族等）との連携や情報共有するうえで困難だったこと。

事業所	ある	ない
訪問介護・訪問入浴	33	16
通所介護	67	24
訪問看護ステーション	11	6
看護・小規模多機能型居宅介護	14	5
居宅介護支援事業所	70	23
地域包括支援センター	24	4
計	218	79



<ある→具体的に>

【共通】

- ・会議（サービス担当者会議、退院カンファレンス等）ができず、情報共有が難しかった。
- ・総合病院では電話が込み合い、担当者と連絡が取りにくかった。
- ・退院カンファレンスがないままの新規利用者の受け入れは不安があった。
- ・在宅勤務している事業所担当者と連絡が取れず、サービス変更や利用者の状態変化の報告が遅れた。
- ・職員間の情報共有の会議等が減少した。

【訪問介護・訪問入浴】

- ・利用者が濃厚接触者だったことを事後報告で知ることがあり、情報が入りにくかった。

【通所介護】

- ・急な休業で利用者、家族、他事業所への電話連絡、その後の文書での案内が大変だった。

【訪問看護ステーション】

- ・発熱のある利用者の訪問に迷いがあった。

【看護・小規模多機能型居宅介護】

- ・泊りの利用者の家族が安否を心配する問い合わせが多かったが、面会も難しく困った。

【居宅介護支援事業所】

- ・入院中に家族やMSWとサービス調整をしたが、本人の意向とずれがあり、退院後再度調整が必要だった。

【地域包括支援センター】

- ・在宅復帰前に本人に会えず、連携室からの情報のみで退院後のサービスを組まざるを得ないことが多々あった。退院後に本人や家族の意向を確認すると、病院から得た情報とずれがあった。

<工夫したこと・うまくいったこと>

【共通】

- ・電話、テレビ電話、ファックス、メール、等を活用し密に情報交換を行った。
- ・連絡帳やお知らせ等、書類での伝達が利用者、家族の理解を得やすかった。
- ・ウェブ会議を行った。
- ・訪問前に電話で体調確認、訪問理由を伝え訪問時間を短くした。

【訪問介護・訪問入浴】

- ・家族へ介助方法をレクチャーし訪問回数を減らした。

【通所介護】

- ・利用自粛している方用に体操プリントを配布した。他事業所にもプリントを送付し活動を知ってもらった。

【訪問看護ステーション】

- ・事業所が休止した場合、他訪問看護ステーションに訪問を依頼する必要がある利用者をリストアップし情報をまとめた。

【看護・小規模多機能型居宅介護】

- ・面会制限による認知症状悪化がみられる利用者へ、電話で家族の声を聴いてもらう、ガラス越しの面会を実施した。

【居宅介護支援事業所】

- ・通所系サービスの中止で気分が落ち込んでいる利用者宅へタブレットを持参し、通所事業所担当者との電話での会話で元気づけてもらった。

【地域包括支援センター】

- ・状態がある程度安定している利用者は、サービス担当者会議を開催せずサービス事業所に照会に対応した。会議では聞けないような状況を知ることができ、利用者へわかりやすく説明することができた。

3. 平時のサービス提供が困難な中で、どのような工夫をされていましたか。

【共通】

- ・事業所での感染対策の取り組みをまとめた文書を利用者に渡し、共通認識で感染対策を行うようにした。
- ・スタッフの感染への恐怖とストレス軽減のため、マニュアル作成、情報交換をこまめに行った。
- ・事業所が閉鎖する事態に備えて、近隣の事業所へ依頼する打診や、その際の手順書をまとめた。
- ・利用者が自分でできる体操など、家庭でできる介護予防・感染予防を紙面にまとめ、渡した。

【訪問介護・訪問入浴】

- ・「必要最小限のケア」について、スタッフ間で話し合い、整理した。
- ・利用者ごとにスタッフを担当制とした。

【通所介護】

- ・施設全体の部屋の使い方を見直し、1部屋あたりに過ごす利用者数を減らした。
- ・レクリエーションは脳トレ等各自で楽しむもの、グッズを消毒しやすいもの(プラスチック製)に変更した。
- ・マスクをしていることによる熱中症リスクを考慮し、水分摂取の回数を増やした。
- ・感染発生時に備え、利用者がどんな配置で座っていたかを記録した。(図、写真などにより)

【訪問看護ステーション】

- ・体温計は利用者宅のものを使用する、職員は直行直帰、担当を固定する、使用する車を固定する。

【看護・小規模多機能型居宅介護】

- ・利用者と家族の要望を確認し、通いと泊りを事情に合わせて変更した。
- ・泊りのみの利用者との出入りのある利用者との介助者を分けた。

【居宅介護支援事業所】

- ・サービスの利用が制限されたことによる家族の負担が増えたため、意識的にねぎらうようにつとめた。
- ・訪看やヘルパーなどサービス提供事業所とのやりとりを増やし、詳細な状況把握をした
- ・複数のサービス事業所の利用者には、感染状況を考慮し、プランの見直しをはかった。

【地域包括支援センター】

- ・地域包括支援センターの感染対策を説明し、本人や家族に安心してもらおうようにした。
- ・訪問時間を短くするために答えやすい質問の工夫をした。

4. 医療介護の現場における“新しい事業の取り組み”等、今後に向けたアイデアをご記入ください。

【共通】

- ・平時の信頼関係が大切だと再認識した。引き続き、利用者や家族・関係者との信頼関係づくりを行いたい。
- ・事業所内で感染者が発生した時の対応マニュアル（連絡、人員確保、サービス提供の見直しなど）
- ・事業所同士、利用者ともオンラインでつながる仕組みづくりをしたい。
- ・サービス提供側と受ける側が共通認識で感染対策できるよう、リーフレットなど媒体づくり。
- ・近隣の事業所との人的・物的支援のネットワークづくり。
- ・基本的な感染対策を丁寧に行う、免疫力アップのための啓発
- ・TV局とタイアップし、大切なお知らせを流すようになるとよい。

- ・介護者側も苦なく続けられる感染予防グッズの開発（簡単に着られる防護服、透明で涼しいマスクなど）
- ・発熱者に特化した、移動や入浴サービスを提供する仕組み。
- ・各機関との情報連携のための統一ソフト(アプリ)記録の電子化を図り、業務を効率的に行えるようにする。

【訪問介護・訪問入浴】

- ・リモートで確認することと、買い物や掃除など自宅に行って行うサービスと分ける。

【通所介護】

- ・散歩、畑作業など、三密を防ぎながらの活動を積極的に取り入れる。
- ・飲食店とタイアップして、昼食にテイクアウトを取り入れるなど、楽しいと感じられる工夫。

【訪問看護ステーション】

- ・情報が多く、迷いながら感染対策を実施した。感染管理認定看護師等相談できる窓口があると良い。

【看護・小規模多機能型居宅介護】

- ・認知症の方はマスクへの理解が難しい。作成から一緒に行い、愛着を持ってもらうようにしたい。
- ・通いのみの利用者として、通いと泊りを組み合わせる利用者の接触をなくす。

【居宅介護支援事業所】

- ・事業所・医療機関どうしの情報共有方法を検討。

【地域包括支援センター】

- ・リハビリや栄養に関するミニ講話を動画配信。
- ・感染者がでて、地域で風評被害が出ないような、日頃からの関係性づくり。

5. 今年度の医療介護連携研修会で学びたいこと、他の事業所の方に聞いてみたいこと、共有したいこと等、自由に記載してください。

【共通】

- ・他の事業所の取り組みを知りたい。
- ・「感染症」「感染対策」の基本的なことを知りたい。
- ・感染症対策のマニュアル（現場レベル、施設・法人レベル）
- ・利用者が感染者・濃厚接触者が発生した場合にすぐに行うこと、連携の取り方。
- ・今後に備えて備蓄しておくもの、備えておくべきこと。
- ・職員の不安やコロナと付き合いながらの生活の楽しみ方、ストレスの解消法。
- ・マスク装着が難しい方や認知症の方への感染対策の工夫。
- ・記録等のオンライン化、Web会議等の環境がどのくらい整っているか、他事業所の状況について知りたい。

【訪問介護・訪問入浴】

- ・複数の事業所を利用している場合の、感染症発生時の連携の取り方。
- ・利用者との直接の接触が避けられないサービス提供をする上での感染対策。

【通所介護】

- ・限られた施設のスペースでの、新しい生活様式にあったレクリエーションのあり方。

【訪問看護ステーション】

- ・熱中症を予防しながらの入浴介助について。

【看護・小規模多機能型居宅介護】

- ・対面での診療がないことで、医師に診てもらっていないと不安をいだく方への対応について知りたい。

【居宅介護支援事業所】

- ・退院時カンファレンスをする-しないの基準、されない場合の情報のやりとりの方法が知りたい。
- ・各種事業所が休止や自粛となった場合の支援。

【地域包括支援センター】

- ・在宅ワークはどんな風におこなっていたか知りたい。